奄美の風だより

発行・編集：奄美自然体験活動推進協議会

NO. 10
（秋号： 3）
2002. 11. 1
ANC: News Letter

「 アオサギ 」

センター前と大和川にて撮影

２００２年

アオサギ

道路沿いには淡いピンクのサキシマフヨウの花が咲き、晴れた日の上空ではピックイー、ピックイーと鳴きながら舞っているサシバの姿を見ると秋の訪れを感じます。

センター周辺では冬鳥として渡来する「キセキレイ」が飛び回っていて、じっくりと観察したいのですが近づくと飛んでしまい写真を撮ることもなかなかです。また、センター前の広場には、日本で見られるサギ類では最も大きいと言われる「アオサギ」が姿を現します。見つけるとすぐに事務所のフィールドスコープを覗くようになりました。近くの大和川ではアオサギのほかにササゴイの姿も見られるようになりました。

先日、奄美自然観察の森へ出かけました。「夏のふれあい行事」以来で、森への道の途中でススキの群生地があり、穂が風にゆれている光景は秋らしさを強く感じさせました。しばらく走っていると道路近くに咲いている鮮やかな紫色の花が目をひいたので、近づいて見るとつる性の「モミジヒルガオ」の花でした。夏に訪れた時とは違う景観に四季の変化を感じました。

例年に比べ寒さが足早でやって来たようで、朝夕はめっきり冷え込み肌寒さを感じます。

風にゆれているススキ

モミジヒルガオ

キセキレイ

お知らせ

◆第３回「やせいのいきもの絵画展」の出展作品募集について

＊テーマは『わたしが見つけた、生きものの色』です。＊

今年も昨年に続いて第３回「やせいのいきもの絵画展」を奄美野生生物保護センターとの共催で開催します。

奄美自然体験活動推進協議会では、平成１３年度の協議会活動でパンフレット「わきゃ　あまみ　①奄美のいろさがし」を作成し、今年の６月に各市町村、各小学校（５・６年生）宛に送付いたしております。

そこで今年の絵画展のテーマは、このパンフレットにちなんで「わたしが見つけた、生きものの色」としました。

つきましては、第３回「やせいのいきの絵画展」出展作品を下記の要項で募集いたします。

【募集内容】

締め切り：平成１４年１１月２６日（火）必着

テ　ー　マ：「わたしが見つけた、生きものの色」

用紙サイズ：画用紙　Ｂ４サイズ

パステル、水彩絵の具、油絵等

種類は問いません。

応募資格：小・中・高校生

（小学校３年生までを低学年とする。）

入選者発表：平成１４年１２月上旬予定

（本人へ直接通知します）

【　賞　】

いきもの大賞：低学年の部、高学年の部（各１名）

あざやか賞：低学年の部、高学年の部（各２名）

ユニーク賞：低学年の部、高学年の部（各２名）

審査員特別賞：学年を問わず（２名）

（小学校３年生までを低学年とする。）

※以上、入選者には賞状と副賞を贈呈します。

応募作品は展示終了後郵送でお返しします。

【送り先】

〒８９４－３１０４

大島郡大和村思勝字腰ノ畑５５１番地

奄美野生生物保護センター・奄美自然体験活動推進協議会

【絵画展開催予定】平成１４年１２月７日（土）～平成１５年２月２日（日）

協議会活動報告

★クラフト教室　「海べで草木染めをしょう」

日　時：8月7日（水）　午後1:30～4:30
場　所：工房「てるぼうず」

【草木染めの様子】

夏休み行事２回目のクラフト教室は、大和村国直の工房「てるぼうず」で草木染めを行いました。奄美に生えている植物（フクギ）を使って染色の体験をしてもらおうと企画しました。

全員で近くの海辺へ行き、布に巻き付けるための小石を拾ってから染色の作業を始めました。

まず、木綿のハンカチ（45㎝×45㎝）に拾った小石やビー玉を5～6個紐で巻きつけます。次に染まりやすくするめにハンカチを水洗いします。そして、ハンカチを染色液（フクギを細かく刻んだものを煎じた煮汁）に15分間浸しておきます。ゴム手袋をはめて絞るのですが、熱い煮汁の中での作業のため同伴の大人の方が中心になって扱っていたようです。次に媒染液に15分間浸しておき、もう一度染色を15分間といった工程を経ると鮮やかな黄色に染め上がりました。ハンカチを水洗いした後小石やビー玉を巻き付けていた紐をほどいていくと、結んであった所は染まらずに黄色地に白の模様が出来上がっていました。

参加した子供達は、作品の出来ばえに満足そうでした。「きれいに出来てうれしかった」「染めた後の形がおもしろかった」「きれいな色に染め上がったことに驚いた」などの感想が聞かれましたが、結んだ紐をほどく作業は難しかったようです。

この体験学習を通して、身近にある植物で草木染めが出来る楽しさを感じてもらえたようです。

★自然観察会　「夏の夜にホタルを観察しょう」

日　時:8月14日(水)　午後7:00～10:00
場　所:奄美自然観察の森
講　師:作田　裕恒さん(奄美自然観察の森)

【 ホタル観察会の様子 】

夏の行事最終回は自然観察会「夏の夜にホタルを観察しよう」を龍郷町の奄美自然観察の森で行いました。集落近くではほとんど見られなくなったホタルや、夜に活動する生き物たちと出会う機会もあるのではと企画しました。

管理棟前で指導員の作田さんから、ホタルは何故光るか？「ホタルは夜行性で雄と雌がお互いを探すために暗闇の中で光る」ということや、自然観察の森にたくさんいるキイロスジボタルはヒメボタルの仲間で、約２ヶ月間ほど見られるなどの説明を聞いてから林内へと進んで行きました。

作田さんを先頭に懐中電灯を照らして林内を歩き始めると暗闇からホタルが光を放し始めました。しばらく歩いていると作田さんが「電灯を消して！」と声をかけましたので明かりを消すと、あたり一帯がホタルの光に包まれ「わぁー」と驚きの声が一斉にあがりました。その後も林内の散策コースでホタルの乱舞を何度か見ることができました。子供たちは地面で光っていたホタルを手にのせて「わぁー小さい」と言って喜んでいました。林内での観察会の後は、車道へ出て「夜の生きもの観察」も行いました。歩いているとリュウキュウコノハズクの幼鳥の鳴き声を聞くことができました。しばらくして雨が降り出したため夜の観察会はこの時点で終了しました。

参加者からは、「こんなに多くのホタルがいるとは思わなかった」「手にのせられておもしろかった」「ホタルの乱舞に感動しました」などの感想がきかれました。

日常生活であまり感じることのない奄美の自然の豊かさを感じてもらえたようです。

新聞記事　　「大島新聞」

-

地域紹介コーナー

笠利町

（大瀬海岸）

本町は，5島からなる奄美群島の主島である奄美大島本島の最北端に位置し，鹿児島から南に海上約380㎞の距離にあります。平均気温21度と一年中暖かい亜熱帯の楽園です。なだらかなリーフと美しい海に囲まれた町です。

また，奄美民族発祥の地でもあることから，町のあちらこちらに歴史が秘められています。

風にゆれるさとうきび，野鳥のさえずり，サンゴのきらめき・・・・・。南の島の一日はゆっくりゆっくり過ぎていくようです。

野鳥の宝庫（大瀬海岸）

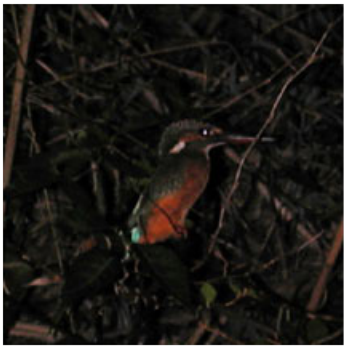
◆◆◆このコースで見られる主な野生生物◆◆◆

植物	ソテツ	アダン	ハイビスカス	リュウキュウマツ
	ガジュマル	デイゴ		
動物	ミサゴ	リュウキュウアカショウビン	イソヒヨドリ	コアジサシ
	アカアシシギ	エリグロアジサシ	クロサギ	ホウロクシギ

身近な生きもの情報　野生の生きもの観察日記

夜の生きもの観察は、奄美では珍しいことではありません。例えばアマミノクロウサギはほとんど夜に観察されていますし、今年の夏にセンターで開催した『夏の夜にホタルを観察しよう』もそうです。ただ、夜にマングローブの林をカヌーで回るという経験はなかなかできません。今回は地元ＮＧＯの奄美野鳥の会が主催する会員イベントでそのような体験ができるということで早速申し込みをしました。しかもその日（9月21日）は旧暦の8月15日、中秋です。カヌーの上からお月見ができるという素敵なおまけ付きでした。

マングローブカヌー自体は何度か経験があるのですが、夜に乗るのは初めて。二人乗りのカヌーに乗って早速マングローブの林にこぎ出しました。
このツアーでは林の中で寝ている鳥を観察することもできるので、どんな鳥が見つけられるかも楽しみの1つです。こぎ出してしばらくして、河畔の木にとまって寝ているカワセミを発見。カヌーで近付いているせいか、驚く程近くまで寄ることができました。でも、ライトを当てたせいかカワセミは目を覚ましてしまい、下流の方へと飛び去ってしまいました。起こしてしまってゴメンナサイ。



（↑）お休み中のカワセミ

カヌーは林の奥へと向かいます。網の目のように張り巡らされた細い水路は昼間でも通るのが難しいくらい。バックや転回を繰り返しながら何とかついて行きます。ライトに照らし出された赤いオヒルギの花は、昼間見るのと違ってとても幻想的に見えました。そんな中をこいでいると、まるで自分が奄美にいることを忘れてしまいそうな気分になりました。

（↑）夜に見るオヒルギの赤い花は緑の葉によく映える

ふとライトを消してみると、空には明るい月が出ています。カヌーが月明かりだけで進めるほどです。山の稜線を浮かび上がらせるその輝きは、まさに“中秋の名月”にふさわしい美しさでした。

（センター　中村）

情報マップ　（地　図）

秋にみられる野生生物

※参考文献：図鑑奄美の野鳥

「 ササゴイ 」　コウノトリ目　サギ科　全長52㎝

ゴイサギに似ているが、成鳥は翼の上面が藍色で、笹の葉のような模様が出て、目が黄色である。頭上は黒く背や尾は暗緑青色で、くちばしが黒く、足は黄色っぽい。幼鳥は黒かっ色で翼に灰白色の斑点があり、のどの両側から脇にかけて縦斑がある。ゴイサギの体がずんぐりしているのと比べ、首が少し長めですらっとしている。水辺でじっと待ち伏せて魚類などを捕らえる。全国的には夏鳥として九州以北から本州に渡来する。奄美へは主に冬季と春秋の渡りの時期に見られるが、少数が夏季にも見られ数は少ない。

鳴き声：キュー、ピュー

生息時期：1～12月

「 タマシギ 」チドリ目　タマシギ科　全長雄22㎝、雌26

雌が産卵した後、雄の方が抱卵し、雛の世話や子育てをするという珍しい習性をもつ。一妻多夫。雌雄とも目の周りの白色、胸の白線とそれに続く背のV字形の線が目立つ。雄はのどから胸が灰かっ色で、上面は細かい模様が集まりかっ色に見える。雌は雄より美しく、のどから胸が赤かっ色で下面は白色である。関東以西の水田や湿地等で周年見られ繁殖していて、沖縄島などで繁殖しているが、奄美ではごく稀にしか見られない。

鳴き声：コォー　コォー　コォー　、ウッウフー、など

記録分布：奄美大島　加計呂麻島　請島

10 月になると、ひらけた林道の道脇に生えているススキの傍から、パイプを立てて地面に突き刺さしたような紅紫色の花が、そこかしこで顔を覗かせています。その名はナンバンギセル（南蛮煙管）。主にイネ科やカヤツリグサ科などの単子葉植物の根によく寄生する１年草です。つまり、ナンバンギセルにとってススキはなくてはならない存在なのです。その特異な生態から昔の人はその花を「思ひ草」と呼び、万葉集にも詠まれています。

道の辺の
　尾花が下の思ひ草
　　今更々に何か思はむ
　　（作者未詳）

亜熱帯の森では季節感がないと聞くことがあります。実は昔、私もそう思っていました。それは単に、夏から秋へと移り変わる際に温帯の森で見られるような紅葉がなく、季節の節目にダイナミックな変化が見られないので、気をとめずにそのまま正月を迎えてしまっていたからでしょう。しかし、カメラを持ってアンテナを立てながら山に入るようになってからは、奄美でも「秋」を感じるようになりました。今頃、スダジイの木の根からヤッコソウ（奴草）の芽が出始め、11 月になれば昨年同様、あたり一面に花を咲かせることでしょう。今年は、はじめてリュウキュウサギソウの開花に出くわすことができました。

皆さんも山に一歩足を踏み入れて、自分の「秋」を探してみてはいかがでしょうか。そのときは、くれぐれもハブにご用心。　（山下　亮）

ヤッコソウの新芽
2002 年 10 月撮影

ヤッコソウ開花
2001 年 11 月撮影

リュウキュウサギソウ開花
2002 年 10 月撮影

◆研修報告

１０月１日～１０月４日までの４日間山梨県清里にある（(財）キープ協会）での「平成１４年度環境省自然解説指導者研修会（入門研修)」に参加させてもらいました。環境教育や自然解説、体験学習法などについての講義や、プログラム作成～フィールドでの体験学習が行われました。

【研修内容 】

１，自然解説プログラムの全体像を理解すること。

２，体験と講義で「伝わる・伝える」過程を理解すること。

３，実習を通して、直接人が関わる自然解説プログラムの作り方・考え方を理解すること。

４，全国の仲間とのネットワークを作ること。

５，あなた自信のねらいを達成すること。

自然解説とは指導者が単に知識や情報を伝えるだけでなく、参加者が楽しみながら何かを感じてもらえるような方向へ導くことが大切だと教わりました。

また、体験学習では３つのテーマの中から一つを選び、小グループに分かれて（全グループが主催者側と参加者側の両方を体験）プログラムの作成～フィールドへ出て体験学習を行いました。

実際に体験してみてプログラム作成の難しさや重要性を痛感しました。参加者の中にはすでにフィールドへ出て解説活動を経験されている方が多くおられましたが、未経験の私には学ぶことばかりでした。講義中の自然解説は「経験、感、度胸」という言葉は特に印象に残りました。

研修中にテーマごとに小グループに分かれて意見を述べ合う場が何度も有り、人それぞれに見方、感じ方、考え方、表現方法の違いが有り、改めて伝え方の難しさを感じました。４日間を通して参加者の多くの方と意見交換ができて有意義な研修でした。この研修で学んだことを今後のふれあい行事の観察会などに生かしていきたいと思っています。

編　集　後　記

先日、事務所の元山さんとフォレストポリスへ野鳥の観察に行ってきました。サシバや、ヒヨドリ、キジバトなどの姿はすぐに見られましたが、ルリカケスがなかなか見れないので休んでいると、近くをルリカケスが横切っていきました。また近くに来るのでは？と期待し待っていると、近くの木に止まりました。やがてもう１羽がやって来て２羽見ることができました。野鳥観察はじっくり時間をかけることが必要だと改めて感じました。